



# ヤリイカ対馬暖流系群 令和6年度資源評価結果

# 生物学的特性

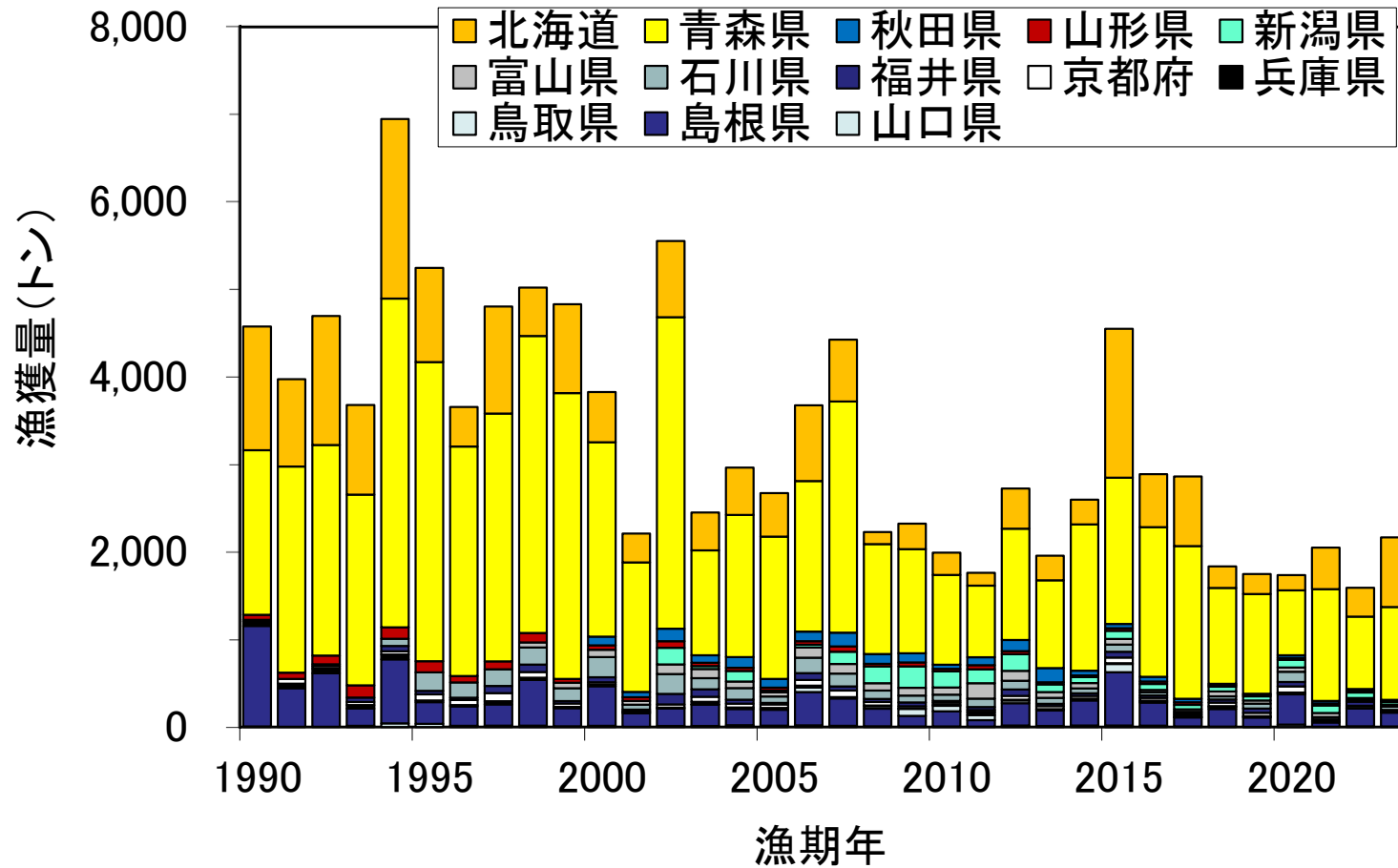


## 生物学的特性

- 寿命：1年
- 成熟開始年齢：約1歳
- 産卵期・産卵場：  
1～7月、北海道宗谷地方～山口県沿岸各地
- 食性：外套背長50mmまでは主にカイアシ類、60～150mmではカイアシ類、オキアミ類、アミ類、170mm前後からは小型魚類
- 捕食者：海産哺乳類、大型魚類等

- 主に産卵群を漁獲対象とし、盛漁期は10月～翌年3月
- 漁期年は8月～翌年7月
- 北部海域は北海道～石川県、西部海域は福井県～山口県

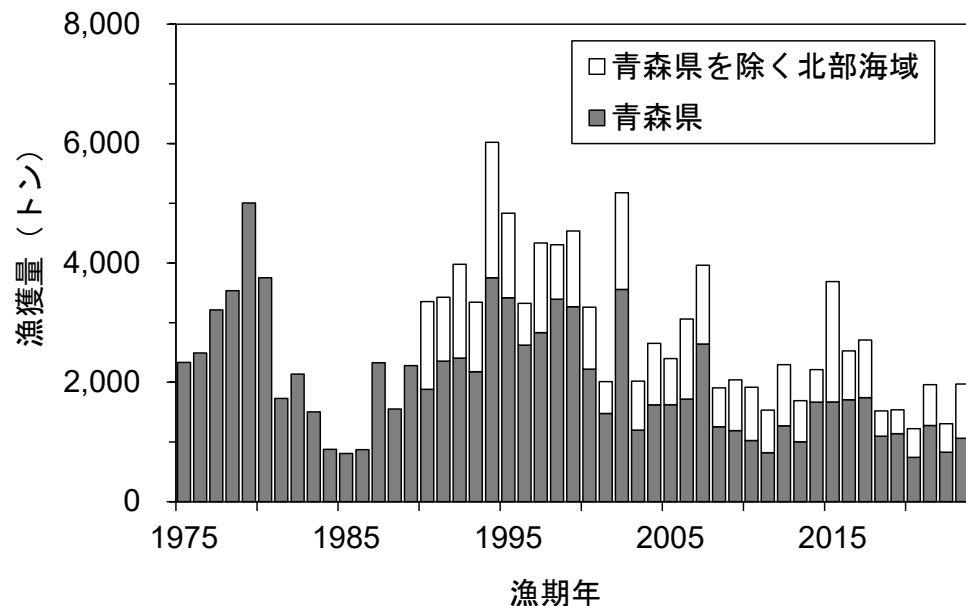
# 漁獲の動向①



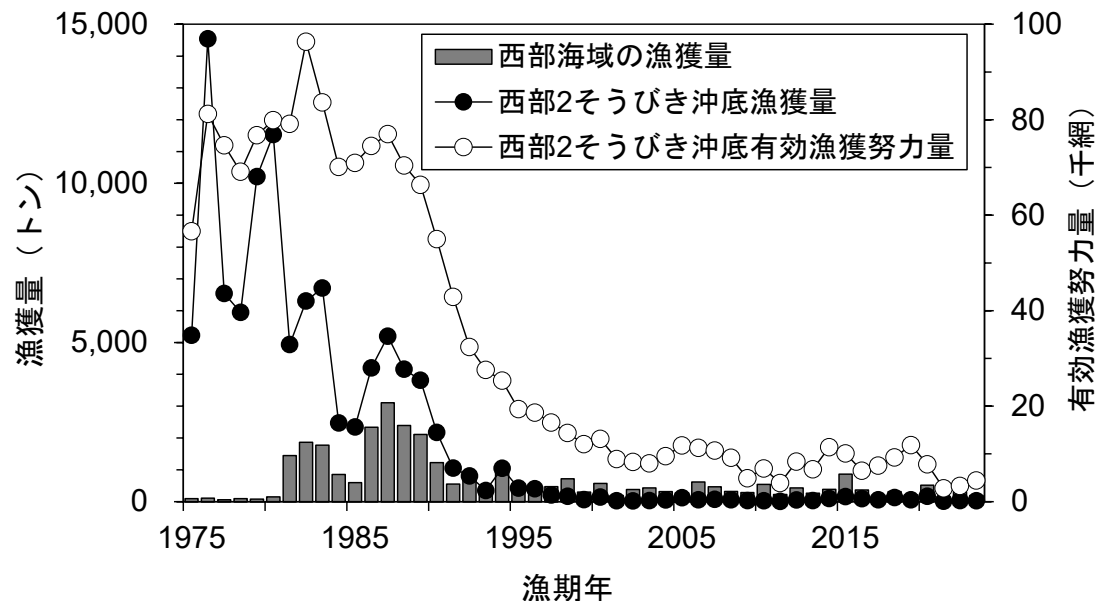
- 青森県および北海道が漁獲の中心
- 1990年代の漁獲量は3,000トンを上回ったが、2000年代以降の漁獲量は概ね2,000トン前後で推移
- 2023年漁期の漁獲量は2,166トンで前年を上回った

# 漁獲の動向②

## 北部海域

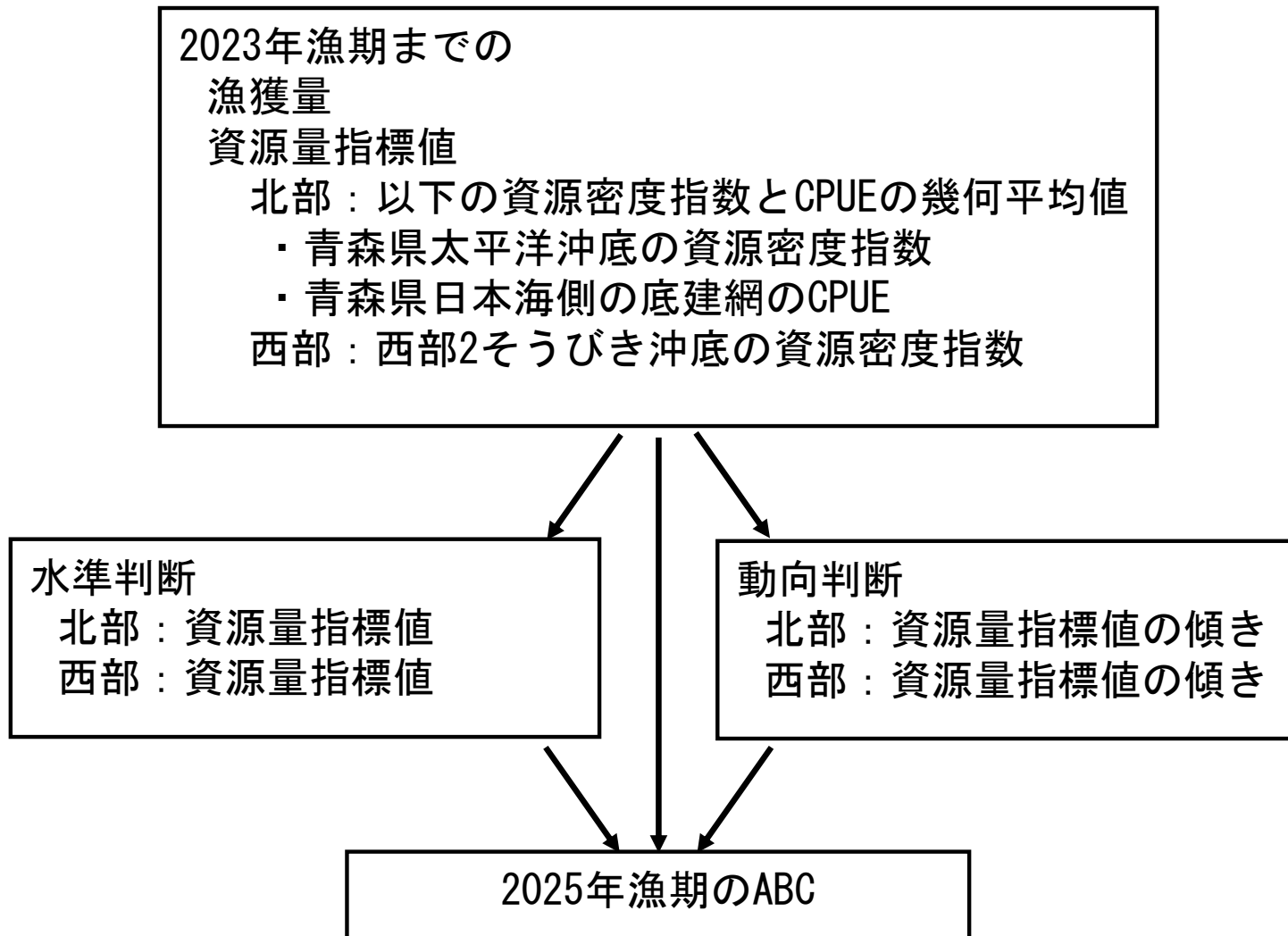


## 西部海域



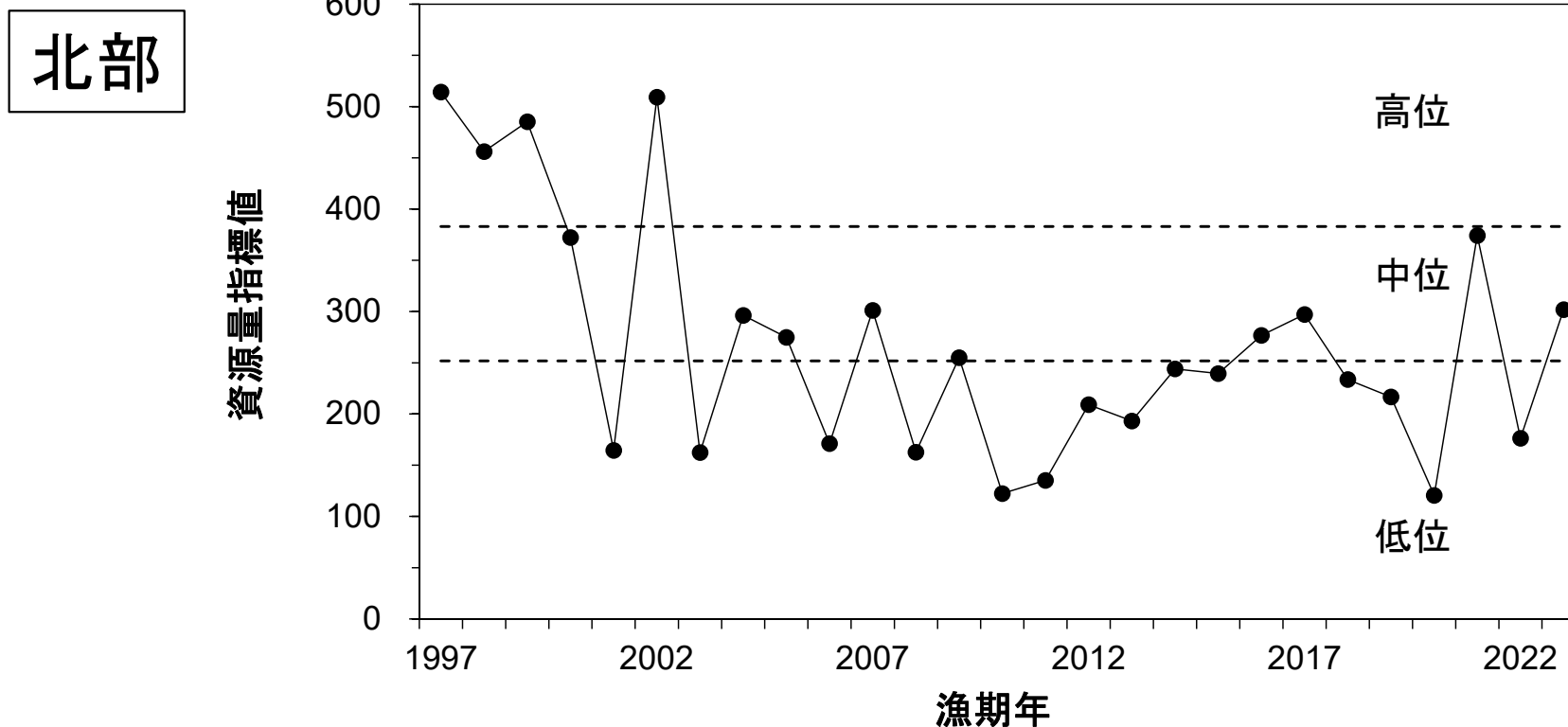
- 北部の漁獲量は1990～2000年漁期は3,000～4,000トン、2000年漁期以降は2,000トン前後で推移
- 西部の漁獲量は1990年代以降は北部に比べ極めて少ない
- 西部2そうびき沖合底びき網漁業（西部2そうびき沖底）の漁獲量は1976年漁期には14,000トンを超えたが、その後大きく変動しながら減少し、1998年漁期以降は200トンを下回った

# 資源評価の流れ



※ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

# 資源の動向①

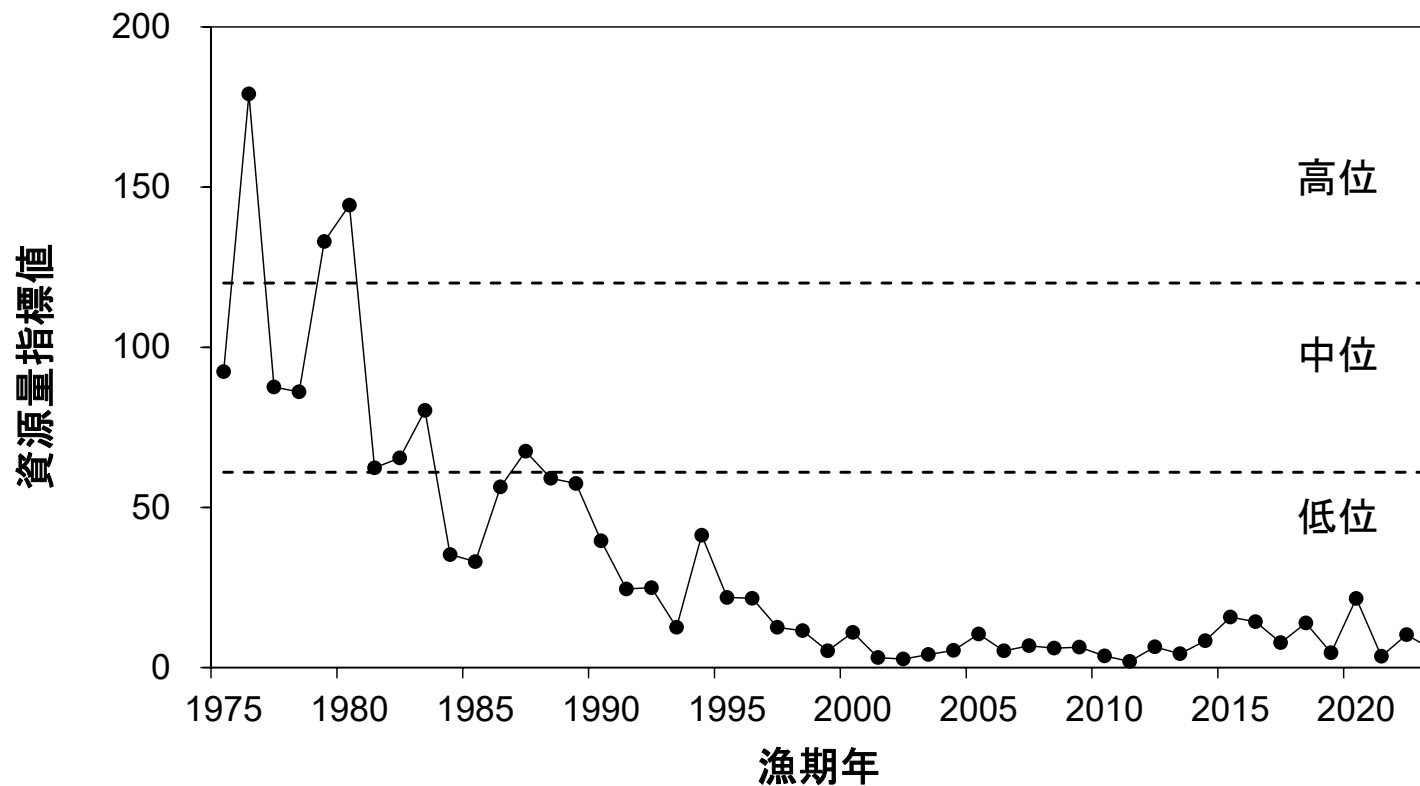


※水準区分 低位／中位：資源量指標値251.8、中位／高位：資源量指標値383.0  
(1997～2023年漁期の資源量指標値の最大値514.2と最小値120.6の間を3等分して算出)

- 北部の資源量指標値：太平洋沖底の資源密度指数と底建網の単位努力量当たり漁獲量（CPUE）の幾何平均値
- 資源水準：2023年漁期の資源量指標値は301.8で「中位」
- 資源動向：直近5年間（2019～2023年漁期）の資源量指標値の推移から「増加」

# 資源の動向②

西部



※水準区分 低位／中位：資源量指標値61.0、中位／高位：資源量指標値120.0  
(資源量指標値の最大値179.1と最小値1.9の間を3等分して算出)

- 西部の資源量指標値：西部2そうびき沖底の資源密度指数
- 資源水準：2023年漁期の資源量指標値は5.8で「低位」
- 資源動向：直近5年間（2019～2023年漁期）の資源量指標値の推移から「横ばい」

# 資源評価のまとめ

- ヤリイカ対馬暖流系群全体の資源水準は「中位」、動向は「増加」
- 北部は太平洋沖底の資源密度指数と底建網のCPUEの幾何平均値を、西部は西部2そうびき沖底の資源密度指数をそれぞれ資源量指標値として海域別に資源状態を判断。漁獲量の多い北部の結果を優先

## 2025年漁期ABC

管理基準	Target/Limit	2025年漁期ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値からの増減%)
1.0・北部Cave3-yr・0.87 0.7・西部Cave3-yr・1.17	Target	1,340	—	—
	Limit	1,675	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則の2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$ : 北部1.0 (中位水準での標準値)、西部0.7 (低位水準での標準値)
- $Ct$ : Cave3-yr (直近3年間 (2021~2023年漁期) の各海域漁獲量平均値)
- $\gamma_1$ : (北部0.87、西部1.17) 資源量指標値の直近3年間の動向から算定
- 系群のABCは海域ごとに算定したABCの合計値